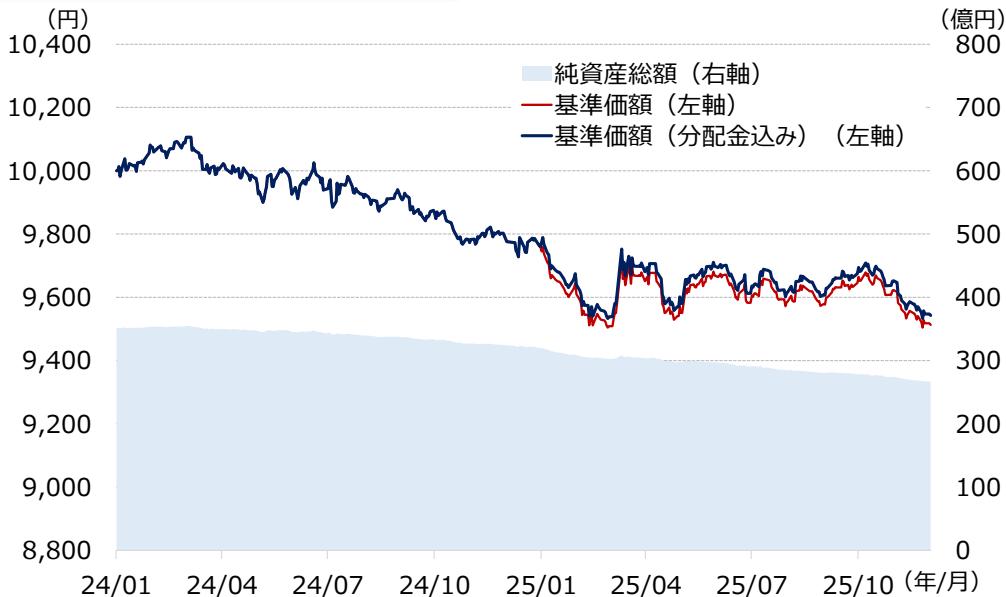


# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 基準価額と純資産総額



基準価額	9,513円
基準価額（分配金込み）	9,543円
純資産総額	266.9億円

騰落率	
過去1年	-2.4%
設定来	-4.6%
分配実績（1口当たり、税引前）	
第1期 (2025年1月29日)	30円

(2025年12月30日現在)

期間：2024年1月29日（設定日）～2025年12月30日（日次）

基準価額（分配金込み）は収益分配金（税引前）を基準価額に加えて計算、基準価額および基準価額（分配金込み）は信託報酬控除後、騰落率は基準価額（分配金込み）で計算。運用実績および分配実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。運用状況によっては、分配金額が変わる場合または分配金が支払われない場合があります。

### ファンドの特色（ファンドの特色について詳しくは8ページをご覧ください。）

#### ◆ 投資対象は野村證券のグループ会社が発行する円建社債（約8年）

野村グローバル・ファイナンス株式会社が発行する円建債券（以下「野村ホールディングス社債」）を高位に組み入れ、満期まで保有することで約8年後の償還時に元本確保\*を目指します。

#### ◆ 野村ホールディングス社債の固定クーポン（年1回）とファンド償還時の実績連動収益の獲得を目指す

実績連動収益はファイデリティ・システムティック・グローバル・マクロ戦略指数（以下「参照指数」）の累積収益率に基づき決定します。

\*投資する債券の発行体・保証体等が債務不履行となった場合等には、元本を確保できない場合があります。信託期間中にファンドを換金した場合やファンドが繰り返し償還された場合等には、換金価額や償還価額が投資元本を下回る場合があります。元本に購入時手数料は含まれません。

### ファンドの目的

- ◆ ファンドの投資対象である野村ホールディングス社債は、「固定利付兼償還時指數連動債」として発行された債券です。
- ◆ 本ファンドは、当該債券をファンド償還日まで保有し続けることで、**年1回の分配金**に加え、**ファンド償還日に参照指數の累積収益率に連動した実績連動収益を受け取っていただくことを目的**として設定しました。
- ◆ 満期日における債券価格は発行時の額面金額に收れんするため、本ファンドは**ファンド償還日までの保有を前提として設定したファンド**になります。

## 本資料のサマリー

### 1. 足許のパフォーマンス

2025年12月末の基準価額は9,513円となり、3ヶ月前の2025年9月末の基準価額と比較して64円下落しました。下落の主な要因は**円金利上昇の影響**によるものです。 →→→詳しくは2ページをご覧ください。

### 2. 参照指數について

2025年9月末から12月末の参考指數は+0.1%、設定來の**累積収益率は +1.8%**となりました。

当四半期は株式からプラスの収益を獲得しましたが、債券と為替はマイナスとなりました。

参考指數は株式・債券・為替の3資産（投資対象国は各資産ともに先進5カ国）へ投資し、市場の変化に迅速・柔軟に対応する定量モデルが買建てや売建てのポジションを判断します。

→→→参考指數の詳しい運用については3～7ページをご覧ください。

上記は将来の投資成績等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただけた場合は、卷末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。



# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 基準価額騰落率の要因分析①

- ◆ 2025年12月末現在の基準価額は9,513円、設定来で-4.87%となっています。下落の主な要因は金利要因です。
- ◆ ファンドが投資する野村ホールディングス社債（約8年）はまだ投資2年目であり満期までの残存期間が長いため、金利やクレジットの影響を相対的に大きく受けます。
- ◆ 満期日の債券価格は発行時の額面金額に収れんし、また野村ホールディングス社債は満期時に参照指数の累積收益率が上昇している場合は、その上昇率が債券価格に上乗せされる仕組みの債券です。

設定来（2025年12月30日現在）

組入債券要因				固定クーポン 収入要因	分配金 要因	信託 報酬等	合計
金利要因	クレジット要因	参照指 数 要因	その他要因				
-5.73%	0.33%	0.96%	-0.12%	0.71%	-0.30%	-0.72%	-4.87%

※その他要因は固定クーポン部分による変動要因、経過日数要因、需給要因等を含みます。組入債券要因部分については、野村證券からのデータをもとに作成しています。合計は実際の基準価額騰落率であり、1ページの収益分配金（税引前）を基準価額に加えて計算した騰落率とは異なります。要因分析の値は概算値です。

## 基準価額騰落率の要因分析②

- ◆ 投資する野村ホールディングス社債の満期日は2032年1月13日であり、設定から2年目の現在の基準価額は金利やクレジット要因に大きく影響を受けた動きになっています。

### （ご参考）国内債券の投資環境

2024/1月-7月：マイナス金利解除の思惑を背景に長期金利が上昇（ファンドにはマイナスの影響）（2024/3月の日銀の金融政策決定会合で解除決定）

2024/10月-2025/3月：日銀の利上げ観測の高まりを背景に長期金利が上昇（ファンドにはマイナスの影響）（政策金利である短期金利の誘導目標は2024/7月（0.25%程度）と2025/1月（0.5%程度）に引き上げ）

2025/10月-12月：日銀の利上げ観測の高まりと共に長期金利が上昇（ファンドにはマイナスの影響）（短期金利の誘導目標は2025/12月（0.75%程度）に引き上げ）

### （ご参考）国内債券の投資環境

2025/4月-6月：2025年4月のトランプ関税の発表を受けて国内社債スプレッドが上昇（ファンドにはマイナスの影響）

### グラフ①

期間：2024年1月～2025年12月（月次）

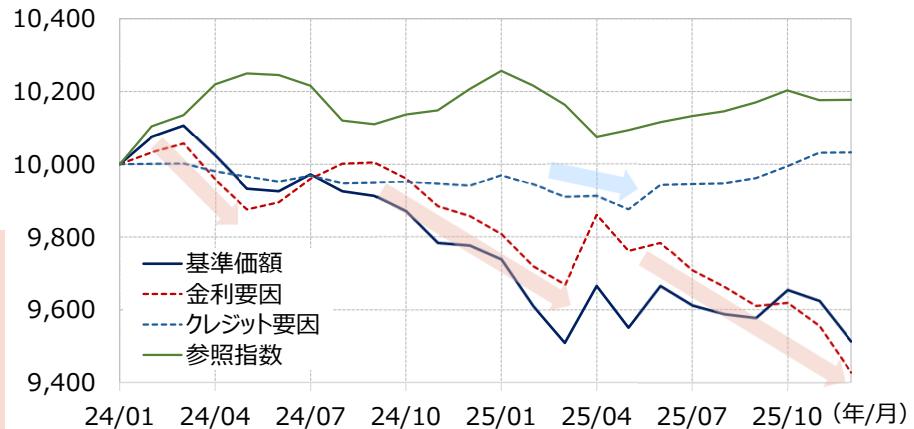
2024年1月29日を10,000として指数化

\*グラフ①では実際の参照指標の値動きを示しています。  
満期までの期間が長いため基準価額に指標の効果は完全に反映されていません。

### グラフ②～③

期間：2024年1月1日～2025年12月30日（日次）  
日本と米国の長期金利は各国10年国債利回り  
国内社債スプレッドはA格相当5年のスプレッド  
出所：ファンドの運用実績、Bloomberg、野村證券のデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成  
上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

グラフ① 基準価額と変動要因（金利、クレジット）および参照指標\*の推移



グラフ② （ご参考）日本と米国の長期金利の推移



グラフ③ （ご参考）国内社債スプレッドの推移



# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 参照指数について

- ◆ 参照指数は歴史と規模を誇るフィデリティ運用チームが市場の変化に迅速・柔軟に対応する定量モデルを活用して投資判断を行う戦略を基に算出される指標です。
- ◆ 投資対象資産は株式・債券・為替の3資産（投資対象国は各資産ともに先進5ヵ国）、買建てだけでなく売建てでも活用することにより市場の下落局面でも柔軟に対応します。
- ◆ 市場のリスクオン・オフやトレンドを判定する複数の定量モデルに基づき週次でリバランスを行います。

### 投資対象資産

株価指数先物 (日・米・英・独・仏)	国債先物 (米・英・独・豪・加)	為替 (円・ユーロ・英ポンド・豪ドル・加ドル) ※対米ドル
→買い建て～中立付近の範囲で調整	→買い建て～売り建てまで柔軟に調整	→株式・債券の局面分析とは別観点でポジション構築

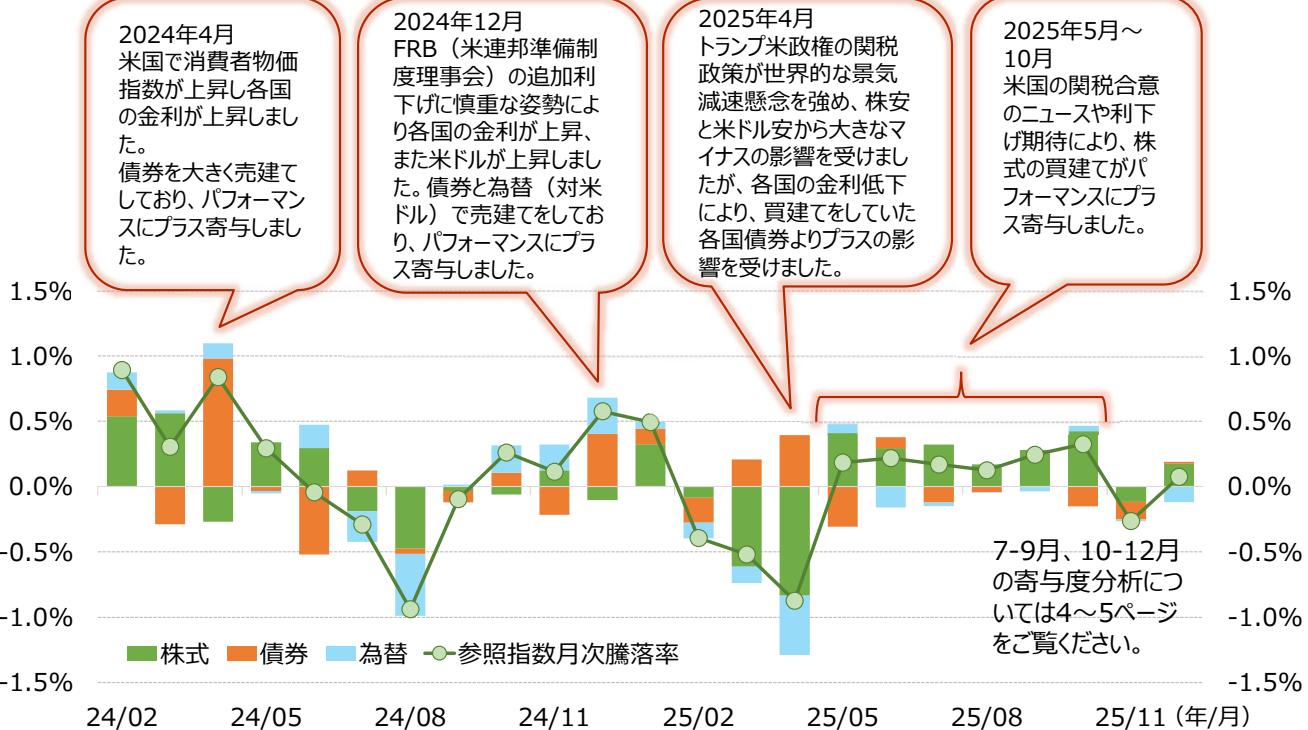
## 参照指数の運用状況

期間：2024年1月29日（設定日）～2025年12月30日（日次）  
参照指数は基準価額への反映を考慮して1営業日前の数値を表示

### 参照指数の推移



### 月次寄与度分析



出所：Bloomberg、野村證券のデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

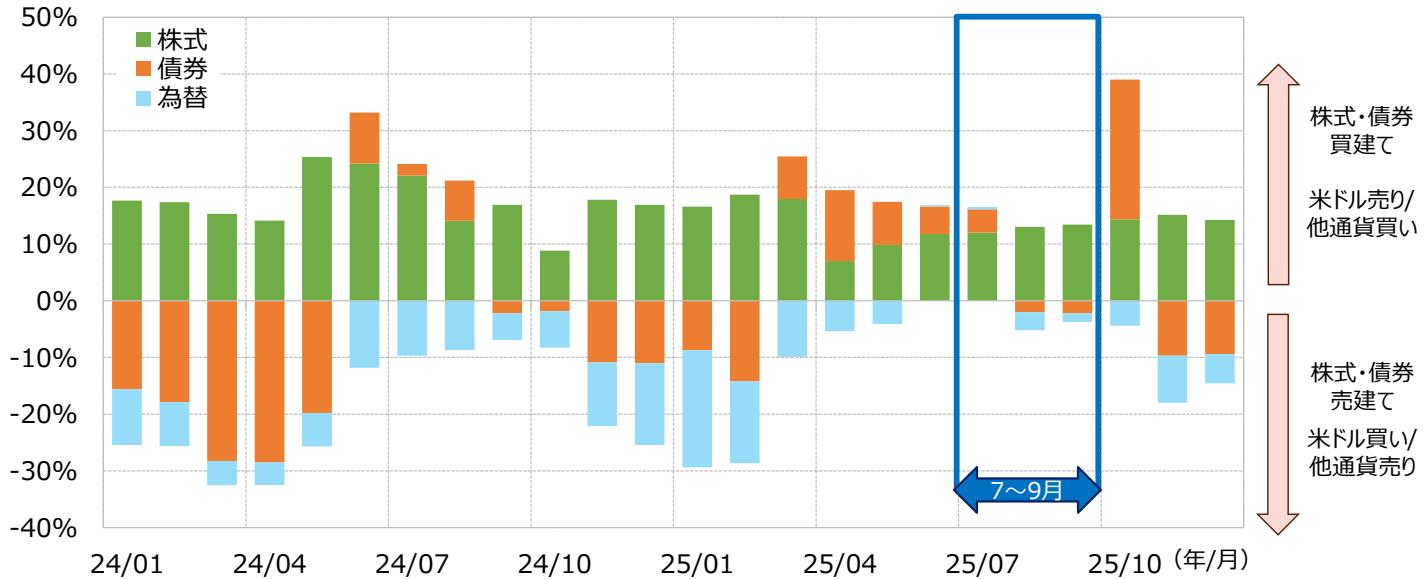


T&Dアセットマネジメント

# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 参照指数の資産配分比率

期間：2024年1月末～2025年12月末（月次）  
参照指数は基準価額への反映を考慮して1営業日前の数値を表示



## 2025年7月～9月の参考指標

期間	市況および投資動向	期間別騰落率と要因分解																																				
2025年 7月 ～ 9月	<p>参考指標は、期を通じて株式がプラスに寄与したことから上昇しました。</p> <p>株式は、リスク環境の安定を背景、期初から期末にかけて買建てポジションを拡大しました。</p> <p>債券は、各月で景気見通しや金利トレンドの変化により敏感に反応しました。7月にドイツで売建てポジションを縮小する一方、米国と豪州で買建てポジションから売建てポジションに転換しました。8月はカナダの相対的魅力度上昇で買建てポジションを拡大したもののドイツで売建てポジションが拡大したことを背景に5カ国合計で売建てポジションに転換しました。9月は豪州で売建てポジションが拡大し、カナダで買建てポジションが縮小したことから5カ国合計での売建てポジションが一時拡大する場面もありましたが、月末にかけてドイツで売建てポジションが縮小したことから5カ国合計での売建てポジションは前月末水準に戻しました。</p> <p>為替は、各月で通貨ごとの魅力度やトレンド変化がポジションに影響しました。7月前半に英ポンドの買建てポジションが一時拡大する場面もありましたが加ドルや豪ドルの魅力度低下により加ドルは売建てに転換、5通貨合計で買建てポジションが縮小しました。8月前半に日本円と英ポンドの買建てポジションが売建てポジションに転換したため、加ドルが魅力度改善から買建てに転換したものの5カ国合計で売建てポジションに転換しました。9月末にかけては英ポンドが魅力度低下により売建てポジションに転換したものの、ユーロや豪ドルの魅力度改善で売建てポジションが縮小したこと、5カ国合計での売建てポジションは縮小しました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">期間別騰落率 +0.5%</th> </tr> <tr> <th>月次内訳</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>+0.2%</td><td>+0.1%</td><td>+0.2%</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>期間別騰落率 (+0.5%) の要因分解</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要因</th><th>貢献度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>株式</td><td>0.8%</td></tr> <tr><td>債券</td><td>-0.2%</td></tr> <tr><td>為替</td><td>-0.1%</td></tr> </tbody> </table> <p>資産別騰落率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th><th>株式 (%)</th><th>債券 (%)</th><th>為替 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>7月</td><td>0.3%</td><td>-0.1%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>8月</td><td>0.2%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>9月</td><td>0.3%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> </tbody> </table>	期間別騰落率 +0.5%				月次内訳	7月	8月	9月	+0.2%	+0.1%	+0.2%		要因	貢献度	株式	0.8%	債券	-0.2%	為替	-0.1%	月	株式 (%)	債券 (%)	為替 (%)	7月	0.3%	-0.1%	0.0%	8月	0.2%	0.0%	0.0%	9月	0.3%	0.0%	0.0%
期間別騰落率 +0.5%																																						
月次内訳	7月	8月	9月																																			
+0.2%	+0.1%	+0.2%																																				
要因	貢献度																																					
株式	0.8%																																					
債券	-0.2%																																					
為替	-0.1%																																					
月	株式 (%)	債券 (%)	為替 (%)																																			
7月	0.3%	-0.1%	0.0%																																			
8月	0.2%	0.0%	0.0%																																			
9月	0.3%	0.0%	0.0%																																			

出所：野村證券のデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

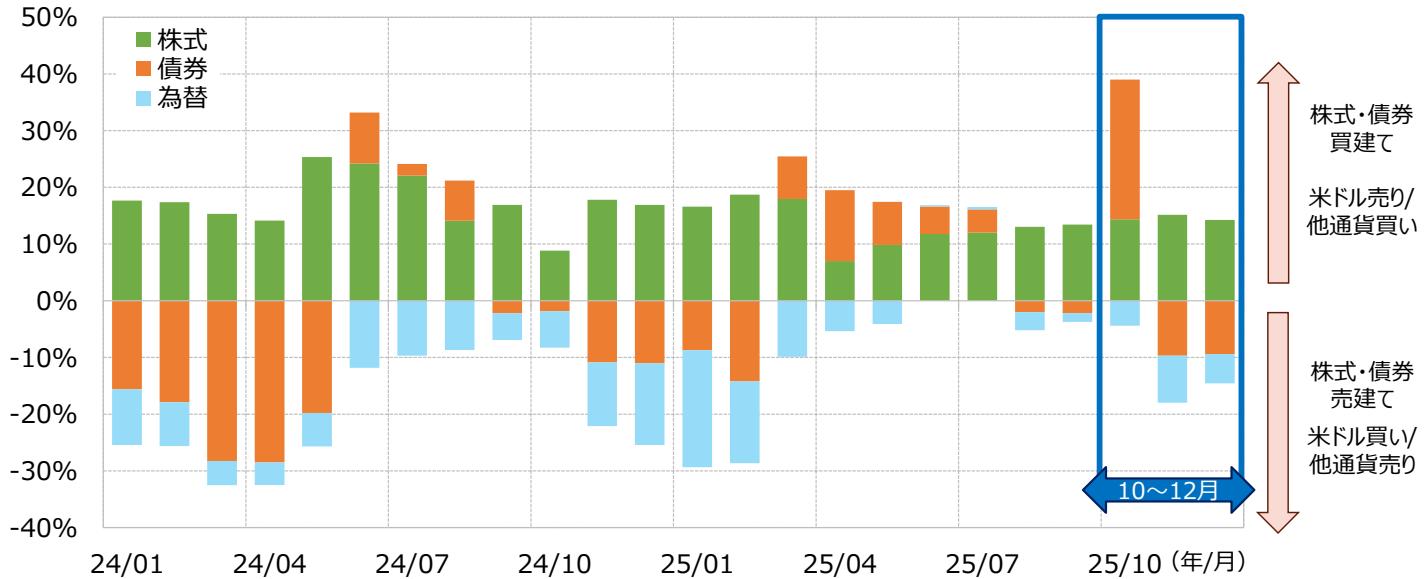


T&Dアセットマネジメント

# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 参照指数の資産配分比率

期間：2024年1月末～2025年12月末（月次）  
参照指数は基準価額への反映を考慮して1営業日前の数値を表示



## 2025年10月～12月の参照指数

期間	市況および投資動向	期間別騰落率と要因分解																																				
2025年 10月 ～ 12月	<p>参照指数は、10月は株式のプラス寄与により上昇したものの、11月は下落し、12月は持ち直しの展開となりました。</p> <p>株式は、10月は比較的良好なリスク環境であったことを背景に買建てを継続しました。11月はAI（人工知能）関連株の過熱感により市場に警戒感が広がりましたが、買建てポジションを維持しました。12月はFRB（米連邦準備制度理事会）による利下げが決定し安心感が広がったことから、買建てポジションを引き続き維持しました。</p> <p>債券は、9月末の売建てから10月上旬にかけて買建てに転じ、10月中旬には5か国合計で買建てに変化し、買建てポジションを拡大しました。11月は景気見通しの改善や一部の買われ過ぎを受けて11月中旬に5か国合計で売建てへ転換しました。12月は11月末からの売建てが継続しつつも、米国の相対魅力度の上昇により米国の売建てを縮小しました。</p> <p>為替は10月初に英ポンド・ユーロ・日本円を中心の動きが見られたものの、中旬以降は加ドル・ユーロ・日本円を中心とした売建て（対米ドル）にシフトし、月末では5通貨合計で売建て（対米ドル）が9月末比でやや拡大しました。11月は通じて売建て（対米ドル）を軸に推移し、上旬は加ドル・英ポンド・ユーロ・日本円が中心、以降は加ドル・ユーロ・日本円・豪ドルを中心とした売建て（対米ドル）となり、結果として11月末の5通貨合計の売建て（対米ドル）は10月末から拡大しました。12月も売建て（対米ドル）基調が続きました。前半は加ドル・日本円・豪ドルが中心、月末は加ドル・英ポンド・日本円による売建て（対米ドル）へと変化し、5通貨合計の売建て（対米ドル）は11月末と比べてやや縮小しました。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">期間別騰落率 +0.1%</th> </tr> <tr> <th>月次内訳</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>+0.3%</td><td>-0.3%</td><td>+0.0%</td></tr> </tbody> </table> <p>期間別騰落率（+0.1%）の要因分解</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資産</th><th>貢献度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>株式</td><td>0.4%</td></tr> <tr><td>債券</td><td>-0.3%</td></tr> <tr><td>為替</td><td>-0.1%</td></tr> </tbody> </table> <p>資産別騰落率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th><th>株式</th><th>債券</th><th>為替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10月</td><td>0.4%</td><td>-0.2%</td><td>-0.1%</td></tr> <tr><td>11月</td><td>0.0%</td><td>-0.1%</td><td>-0.1%</td></tr> <tr><td>12月</td><td>0.1%</td><td>-0.1%</td><td>-0.1%</td></tr> </tbody> </table>	期間別騰落率 +0.1%				月次内訳	10月	11月	12月		+0.3%	-0.3%	+0.0%	資産	貢献度	株式	0.4%	債券	-0.3%	為替	-0.1%	月	株式	債券	為替	10月	0.4%	-0.2%	-0.1%	11月	0.0%	-0.1%	-0.1%	12月	0.1%	-0.1%	-0.1%
期間別騰落率 +0.1%																																						
月次内訳	10月	11月	12月																																			
	+0.3%	-0.3%	+0.0%																																			
資産	貢献度																																					
株式	0.4%																																					
債券	-0.3%																																					
為替	-0.1%																																					
月	株式	債券	為替																																			
10月	0.4%	-0.2%	-0.1%																																			
11月	0.0%	-0.1%	-0.1%																																			
12月	0.1%	-0.1%	-0.1%																																			

出所：野村證券のデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。



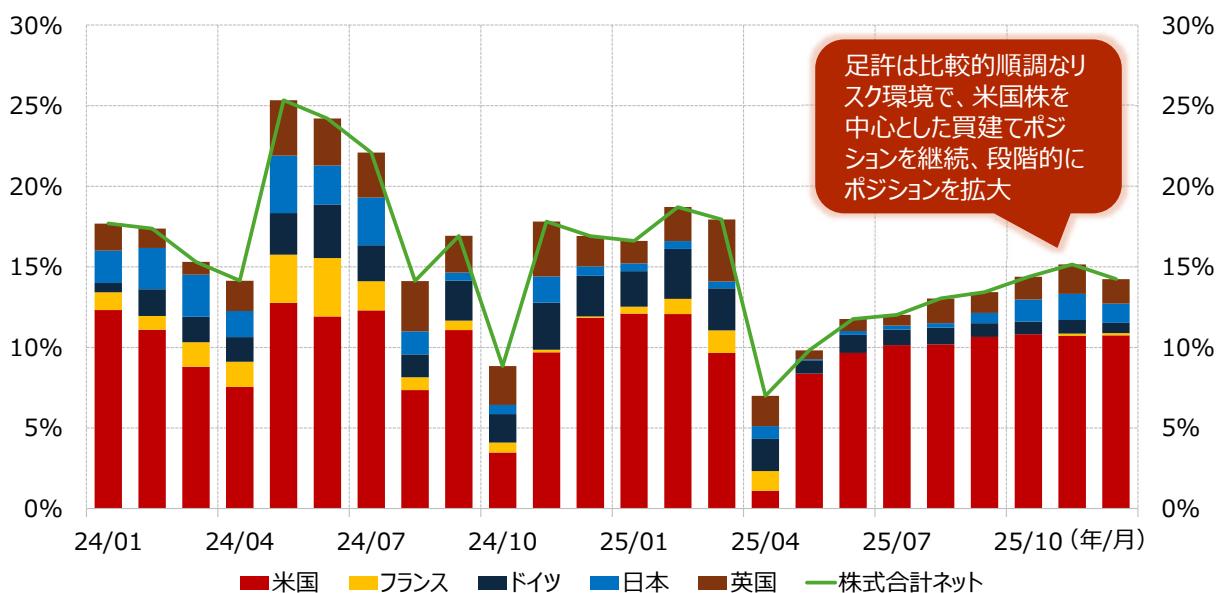
# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 資産クラス別ポジション

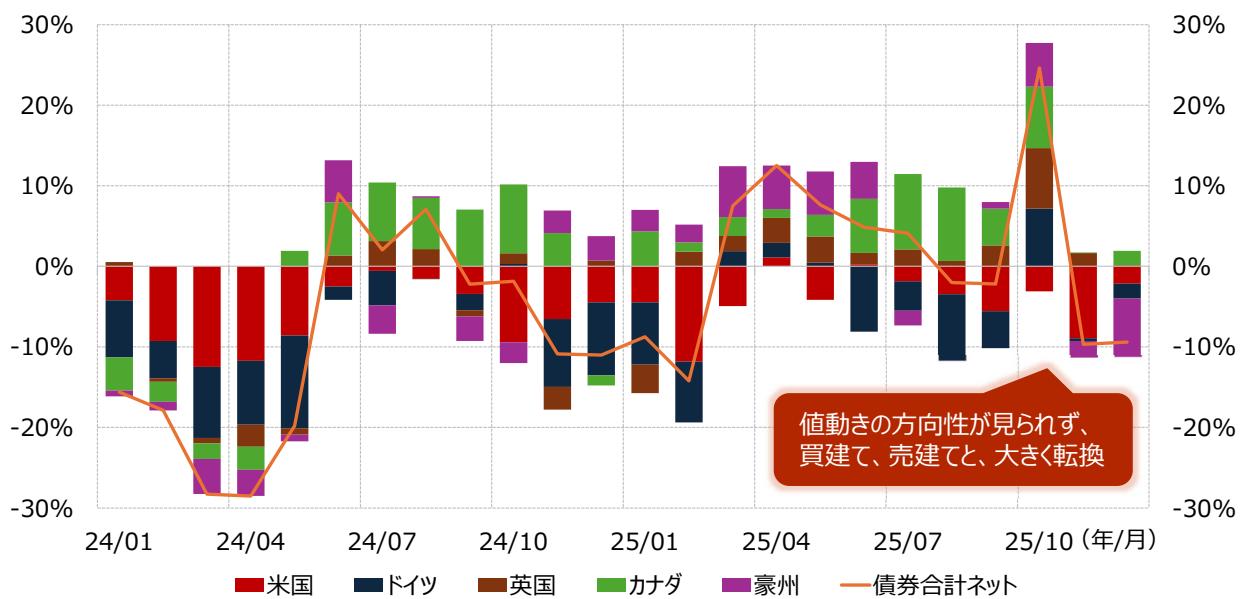
期間：2024年1月末～2025年12月末（月次）

参照指数は基準価額への反映を考慮して1営業日前の数値を表示

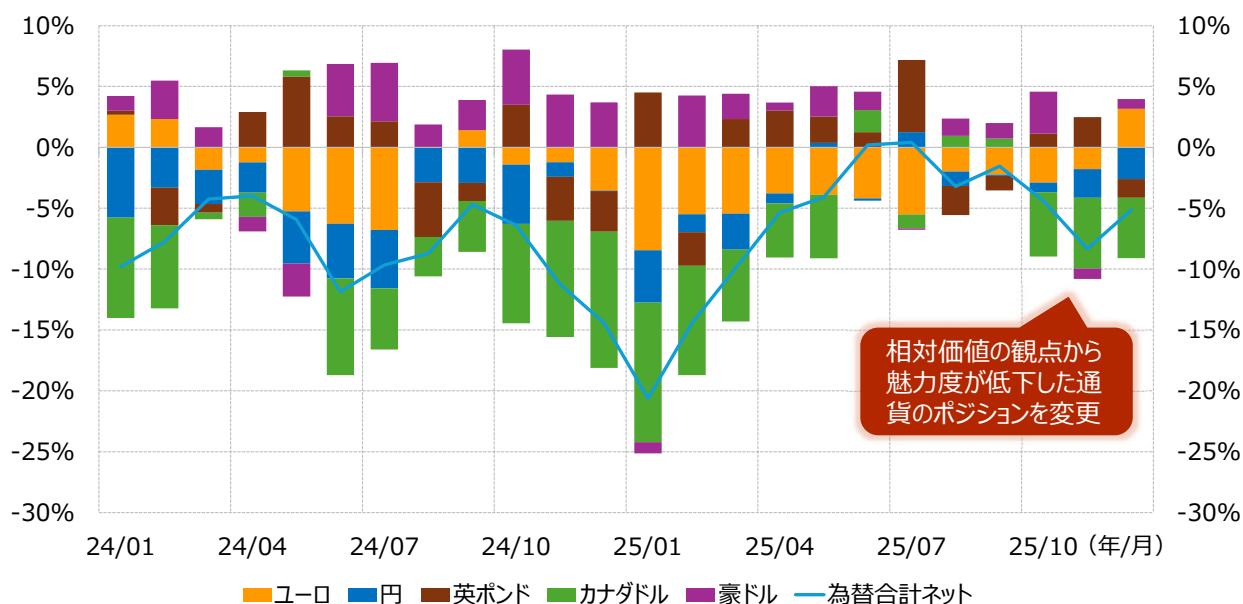
### 株式



### 債券



### 為替 (対米ドル)



上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。



# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## 2008年以降の参考指数



期間：2008年5月8日（指数算出開始日）～2025年12月30日（日次）



期間：2008年5月8日～2025年12月30日（日次）  
世界国債：FTSE世界国債インデックス（米ドルベース）  
世界株式：MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）

参考指標は日々2.5%程度のリスクとなるように調整されています。そのため、相対的に安定した推移になる指標です。

	参照指標	世界国債	世界株式
リターン (年率)	2.9%	1.0%	9.4%
リスク (年率)	2.3%	6.6%	17.8%
運用効率	1.29	0.15	0.53

期間：2008年5月8日～2025年12月30日  
※ リターンおよびリスクは日次データに基づき算出  
※ 運用効率はリターン÷リスクの値です。値が大きいほど、リスク（値動きの振れ幅）水準に対するリターンの値が高く、運用効率が良いと言えます。

### ■当資料で使用するデータについて

MSCIワールド・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、世界の主要国の株式市場の動きを捉える指標です。同指標に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

出所：Bloomberg、FTSE Fixed Income LLC、MSCI、FactSetのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

上記は将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。



# 野村ホールディングス社債／システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

## ファンドの特色

- 野村グローバル・ファイナンス株式会社が発行する円建債券<sup>\*1</sup>（以下「野村ホールディングス社債」または「当該社債」といいます。）に投資し、設定日から約8年後のファンドの償還価額について、元本<sup>\*2</sup>確保を目指します。ただし、投資する債券の発行体等が債務不履行となった場合等には、元本確保ができない場合があります。また、信託期間中にファンドを解約した場合やファンドが繰上償還された場合等には、換金価額や償還価額が元本を下回る場合があります。
 

\*1 野村グローバル・ファイナンス株式会社が発行し、野村ホールディングス株式会社による保証が付されます。

\*2 購入時手数料は含みません。
- 野村ホールディングス社債の組入比率は、高位とすることを基本とします。また、満期まで保有することを前提とし、原則として銘柄入替は行いません。
- 野村ホールディングス社債においては、固定クーポンと参照指数<sup>\*3</sup>の累積收益率により決定される収益（以下「実績連動収益」といいます。）が支払われます。なお、固定クーポンは毎期一定水準支払われ、実績連動収益は野村ホールディングス社債の満期時に元本および固定クーポンとともに支払われます。
 

\*3 参照指数は、フィデリティ・インターナショナルの助言を基にノムラ・インターナショナルplcが構築する指数（以下「フィデリティ・システムティック・グローバル・マクロ戦略指数」といいます。）です。
- 実績連動収益は、フィデリティ・システムティック・グローバル・マクロ戦略指数の累積收益率に基づき決定され、累積收益率がマイナスの場合は、実績連動収益はゼロとなります。
- フィデリティ・システムティック・グローバル・マクロ戦略指数の実質的な投資対象は、グローバルの株式先物、債券先物および対米ドルの為替取引<sup>\*4</sup>です。
 

\*4 為替予約取引を含みます。

ファンドは「特化型運用」を行います。一般社団法人投資信託協会の規則において、投資対象に支配的な銘柄が存在し、または存在することとなる可能性が高いものは、特化型ファンドと定められています。支配的な銘柄とは、寄与度（投資対象候補銘柄の時価総額に占める割合）が10%を超えるまたは超える可能性の高い銘柄をいいます。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

## ファンドの投資リスク

**ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがいまして、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。**

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

特化型運用に伴うリスク 価格変動リスク 信用リスク 流動性リスク 中途換金時および繰上償還時のリスク

※基準価額の変動要因（リスク）は、上記に限定されるものではありません。

### 【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 分配金に関する留意点
  - ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
  - ・分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの收益率を示すものではありません。
- 大量の解約・換金申込を受け短期間で解約資金を準備する必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、投資する有価証券の価格が下落し、基準価額が変動する要因となります。また、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 参照指数に重大な変更が生じた場合や算出が停止された場合等は、当初想定していた分配を行うことができない可能性があります。
- ファンドが投資対象とする野村ホールディングス社債が、発行体および保証体等の債務不履行や法令、税制の変更等により早期償還となる場合、当該社債の換金後にファンドは繰上償還されます。その場合、当該社債は時価で換金されるため、ファンドの償還価額は投資元本を確保できない可能性があります。
- ファンドの基準価額は、信託期間中に1万円を下回る場合があります。



# 野村ホールディングス社債／システムティック・ グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

受益者向け資料

2026.01.30

## お申込みメモ

※ファンドの購入申込期間は終了しています。

換 金 時	換金単位	1口以上1口単位で販売会社が定める単位
	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差引いた額
	換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	換金については、原則として午後3時30分までに販売会社が受けたものを当日の申込分とします。	
信託期間	2032年1月29日まで（2024年1月29日設定）	
決算日	1月29日（休業日の場合は翌営業日）	
収益分配	年1回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。	
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人の場合、原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して20.315%の税金がかかります。公募株式投資信託は、税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。ファンドについては、NISAの適用対象ではありません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。配当控除の適用はありません。	
申込不可日	下記のいずれかに該当する日には、換金の申込はできません。 ・ロンドンの銀行の休業日 ・TARGETの休業日 ・シドニーの銀行の休業日 ・EUREXの休業日 ・モントリオール取引所の休業日 ・大阪取引所の休業日 ・東京の銀行の営業日かつユーロクリア・バンク休業日である日の3東京営業日前 ・ニューヨークの銀行の休業日 ・トロントの銀行の休業日 ・CMEグローベックスの休業日 ・ICE Futures Europeの休業日 ・シドニー先物取引所の休業日 ・ユーロネクスト・パリの休業日	

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <u>0.3%</u> の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用 (信託報酬)	毎日、ファンドの元本総額に <u>年0.352%（税抜0.32%）</u> の率を乗じて得た額とします。
その他の 費用・手数料	・信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。 ・証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。 これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。

上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。



T&Dアセットマネジメント

当資料をご覧いただくにあたっては、巻末の「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

# 野村ホールディングス社債／システムティック・ グローバル・マクロ戦略ファンド2401（愛称：八重重ね）

受益者向け資料

2026.01.30

## ご留意いただきたい事項

- 当資料はT&Dアセットマネジメントが当ファンドの受益者に運用状況をご報告するために作成した情報提供資料であり、ファンドを含む有価証券の売買の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料に掲載されているグラフ、パフォーマンス等の内容は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。当資料に記載されている意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがいまして、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。
- 大量の解約・換金申込を受け付け短期間で解約資金を準備する必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、投資する有価証券の価格が下落し、基準価額が変動する要因となります。また、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

## ファンドの関係法人

委託会社：T&Dアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第357号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社：野村證券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号  
加入協会：日本証券業協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

## 照会先

T&Dアセットマネジメント株式会社  
電話番号：03-6722-4810  
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ：<https://www.tdasset.co.jp/>

すでに販売等の取扱いは行っておりません。